

教科と総合的な学習の時間の連携を意図し、学校放送番組「川」を活用したカリキュラムの開発と実践

笹原克彦^{*1}

地域の川をテーマにした総合的な学習を実践していく過程で、NHK学校放送番組「川」を積極的に活用し、教科学習の中にも「川」を教材とした学習を取り入れながら実践を進めてきた。「川」を中心に様々な切り口から実践を進めることによって、児童の情報を見る視点が広がるなど、教科学習と総合的な学習の時間を有機的につないだ学習が見られた。

キーワード 総合的な学習、教科教育、カリキュラム、学校放送

1 はじめに

新学習指導要領が今年度から、完全実施され、それに伴って総合的な学習の時間の実践も進んでいる。各校でカリキュラムが工夫されている中には、地域をフィールドとしたテーマ学習が進められている事例も多く見られる。一方で新学習指導要領の導入に伴い、教科学習は、内容、時数ともに大幅に削減された。このことから、教科学習の成果を生かした総合的な学習を実践することができれば、削減された時数の中で、教科のねらいを達成しながら、効果的に学習を進めることができると考え、教科を総合をひとつのテーマでつないだカリキュラムを構想してみた。その際に、NHK学校放送番組「川」を積極的に活用することによって、教科学習と総合的な学習の時間の内容を結びつけて実践できるようなカリキュラムを工夫した。

以下に、筆者の勤務する富山市立寒江小学校区を流れる「新鍛冶川」を中心フィールドとした、教科学習と連動した総合的な学習の実践について報告する。

2 教科学習と連動した総合的な学習のカリキュラムの考え方

(1) 川のもつ教材性

総合的な学習の時間において、児童が自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するためには、そのような学習を促す学習課題が必要である。

寒江小の近くを流れる「新鍛冶川」は、堤防の回りに、キイチゴやクマザサなどの

植物が茂り、豊かな自然にあふれている。また、コイ、フナなどの魚をはじめ、昆虫、鳥などたくさんの種類の動物も生息している。しかし、近年は川べりに捨てられたゴミが目立つようになり、環境の浄化が問題視されるようになってきている。

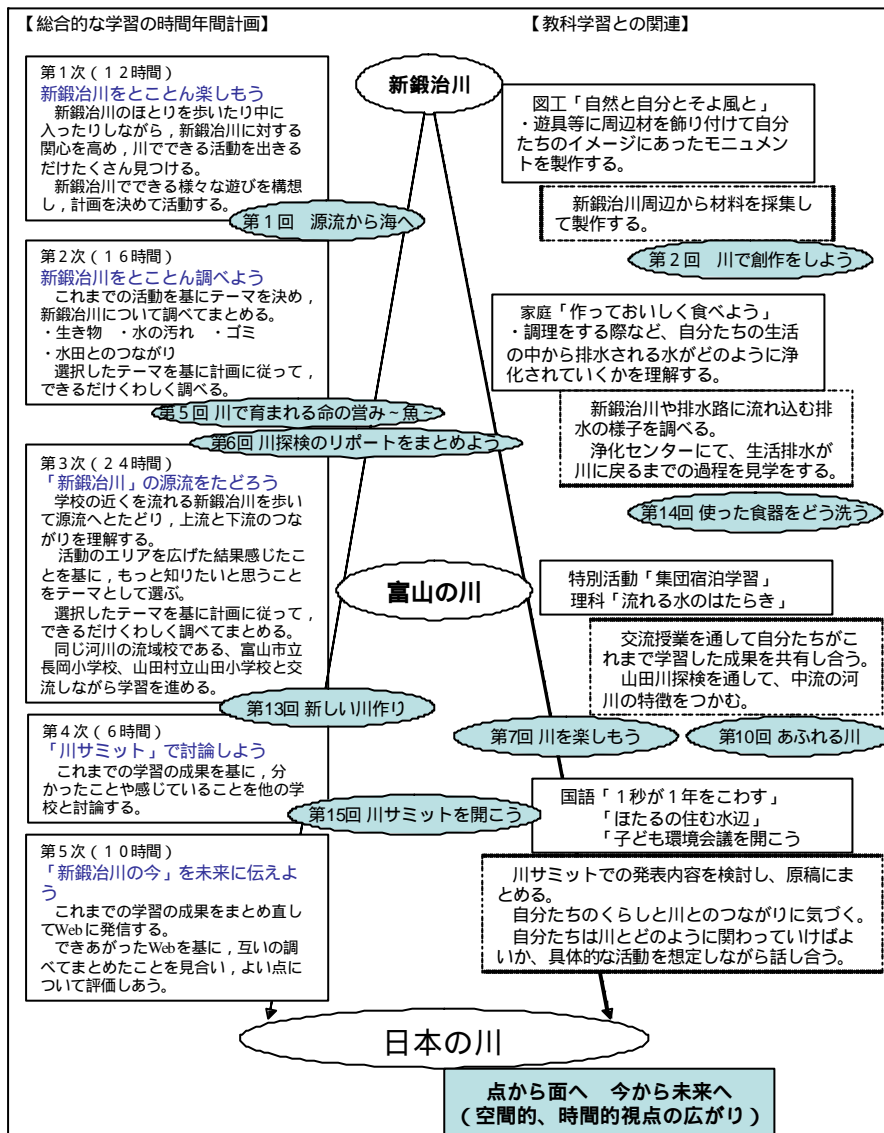
自分たちの身近にある河川を舞台に学習を繰り広げることによって、今日的な問題と向き合いながら体験的な学習に取り組み、課題を解決する力を高めることができると考え、この「新鍛冶川」をフィールドとした学習を構想した。地域への理解を深めることによって、自分の住む地域に愛着と誇りを感じ、その中で、自分と地域のとの関わり方を見つめる力が高まっていくのではないかと考えた。

ところで、生活の中で日常的に目にする川であっても、そこから問題意識を引き出すためには、児童の「なぜ」「どうして」という思いを引き出すような手だてが必要となる。そのためには、何度も校外に出て、様々な活動を繰り広げ、十分に川と触れ合う経験を取り入れることが必要だと考えた。その中から、「生き物が、ずいぶんたくさんいるんだな」「思ったより汚れているんだな」という意識が生まれ、その意識が積み重なることによって学習の課題へと高まっていくと考えた。

(2) 教科学習との関連

5年生は、総合的な学習の時間にもなれ始め、理科、社会といった教科の学習において見方や考え方に次第に広がりが出てく

*1 富山市立寒江小学校 (k-sasa@p1.coralnet.or.jp)



(図1)「新鍛冶川プロジェクト」と教科学習、NHK学校放送「川」との関連図

さまざまな視点から教科学習を番組として提供している。番組のコンセプトとして、木原(2002)は、「この番組を年間を通じて子供に視聴させ、彼らが各回の番組で番組で取り上げられる活動を追体験したり、扱われる内容を発展的に調査したりする場面を設定するだけで、総合的な学習の時間で育成が目指される能力・資質のかなりの部分に迫っていくことができる」ことを示している。そして、「注目していただきたいのは、それぞれの番組の内容が、教科で培う資質・能力を念頭に置いて構成されていることである。(中略)20本の番組の大半は、学習指導要領で規定されている教科目標との連結を意図して、その内容が選定されている。両者の補完関係、有機的なつながりが番組のラインナップに示されている。」と述べている。

る時期である。3、4年生の社会科を経て、校区から市町村、県へと学習のフィールドを広げながら、地域の特色、産業やそこに住む人々のくらし、苦労について学んでいる。また、5年生理科では、流れる水のはたらきの学習など、川そのものを素材にした学習も行われる。

身近の川を素材として取り上げることによって、教科学習と総合的な学習の内容を相互にからめながら学習を展開することが可能になると考えた。

3 NHK学校放送番組「川」のねらい

学校放送番組「川」は、小学校4、5年生を対象に、平成14年度より放送されている。毎回教科学習のねらいを中心に、川をテーマに

プに示されている。」と述べている。

つまり、学校放送番組「川」は、川をテーマにした教科の学習を内容としている(表1)が、この番組を視聴し、活動を学習の中に取り入れていくことによって、教科の力の獲得と同時に、総合的な学習の時間で求められる力も得ようとしているところに特徴がある。従って、「川」を積極的に活用することは、本単元のカリキュラムの構想に合致すると考えたのである(図1)。

4 実践の実際

(1)川探検 図工材料の収集

新鍛冶川をテーマとした総合的な学習を進めるにあたって、まず何度も川探検を体験してみた。これまで、川を注視した経験のなか

(表1) 学校放送「川」の番組内容と教科学習との連動(1学期放送分)

番組副題	番組内容	連動する教科学習の例
1 源流から海へ	川の流れをたどりながら、ダイナミックな水の循環を実感し、私たちの暮らしが川と密接に関わっていることへの驚きを、1年間の川学習のスタートとする。	全教科と関連
2 川で創作をしよう	川原の石に絵を描いたり、岸の流木で木工細工を作ってみる。川や岸边にあるユニークな素材を使って工夫をし、自由な発想の創造・表現にチャレンジ。	4・5年図工：材料や場所などの特徴をもとに工夫する
3 川の音作りをしよう	川で静かに心と耳を澄ませば、日ごろ気づかない色々な音が聞こえてくる。川の音を採集したり、身近な道具や楽器で川のイメージを音で創作・表現する。	4年社会：水はどこから
4 命の水	日本は世界有数の「水がおいしい国」と言われてきた。その安全性と安定した供給を確保するため、どのような苦労と工夫がされているのかを学ぶ。	5・6年音楽：いろいろな音楽表現を楽しむ
5 川で育まれる命の営み～魚～	川にすむ魚たちは川の中でどのように暮らしているのだろうか？番組では川で魚と親しみながら、生態を学ぶだけでなく、魚を見つける方法なども紹介する。	4年理科：季節やあたたかさ生き物 5年理科：命の誕生
6 川探検のレポートをまとめよう	川でフィールドワークを行ない、調べたこと、考えたこと、伝えたい事などを的確にまとめ、お互いに話し、聞くことができるようにする。	4・5年国語：調べたり体験したことを伝えよう 4年社会：水はどこから
7 川を楽しもう	自然の中で、川の遊びを徹底的に楽しむ。川もぐり、釣り、キャンプなど、五感全体で体験すると同時に、安全に遊ぶための注意点やマナーも身につける。	4・5・6年体育：安全に水泳を、水辺活動などの指導



(図2) オナモミで遊ぶ



(図3) 草笛の吹き方を教え合う

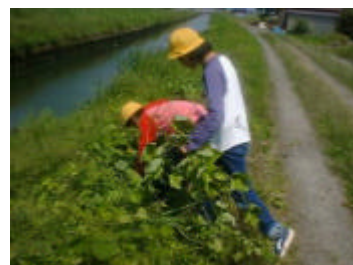
があることに気付いていた。

同じ時期に、図工で「自然と自分とそよ風と」という単元を実践した。遊具等に周辺材を飾り付けて自分たちのイメージにあったモニュメントを製作するという内容の単元であった。この単元では、学校内外から自分の思

った児童は様々な視点から川を観察し、そのよさや問題点に気づき、そこから追究していく課題を見つけていった。オナモミを洋服に付け合せて遊んだり(図2)、クマザサで草笛を吹いたり(図3)しながら、川の周りには多くの種類の植物

いにあった材料を自由に集めて表現することがねらいのひとつになっていた。「川」第2回「川で創作をしよう」を視聴した児童は、材料として、新鍛冶川の周りにも活用したいと考えた。流域に生えている植物や、廃棄物な

くを集めてきて(図4)、それらを表現に生かした作品を仕上げている(図5)。材料を活用した動機として、遊具等が新鍛冶川の自然に包まれた感じを出したいことをあげていた。



(図4) 川で材料を収集



(図5) 遊具をモニュメントに

(2) 家庭科「使った食器の洗い方」

環境への視点の広がり

家庭科で調理実習をする際に、汚れ物を洗う際には、大量の水を使うことがある。しかし、環境問題を今日的な問題として取り上げることが多くなっている昨今の状況にあっては、家庭科学習の中で、水の汚れをできるだけ出さないよう配慮しながら、実習を進めることは、学習の成果を生活に生かすという点で重要なことだと考えた。

学校放送「川」第15回に「使った食器をどう洗う」という内容の番組があった。その番組を活用しながら、水の汚れの原因やできるだけ水を汚さない食器の洗い方などについて学習した。たまたまこの回の番組撮影を本学級で行うことになったため、NHKのスタッフと共に、見学、実習など体験を通じた家庭科の学習を実践することができた。

富山市浜黒崎浄化センターへの見学

自分たちの出した水の汚れがどのように浄化されているかを、説明を受けながら見学した(図6)。

食器洗いの実習

浄化センターの担当官をゲストティーチャーに招き、以下の内容の実習を行った(図7)。

- ・牛乳、醤油などを少量水に入れたときの透明度やCODを測定して、生活の中からどのような汚れがどのくらいでいるかを調べる。
- ・天ぷらなどに使った油を、水をできるだけ使わないで始末する方法を学ぶ
- ・カレーを食べた後の皿の油汚れを、水を使わないで落とす方法を学ぶ。

これらの学習を行った後に、総合的な学習の時間に、自分の課題の見直しを図ったところ、表2に見るような環境的な視点を取り入れる児童が始めた。

(表2) 家庭科学習後に行った総合の課題の見直しから

- ・わたしたちの出す汚れが、新鍛冶川に流れているのか調べたいと思いました。
- ・新鍛冶川の昆虫や植物は、きたない川が好きなのか、きれいな川が好きなのか調べたいと思いました。それは、川の汚れと昆虫や植物とは関係があると思ったからです。

(3) 考察

総合から教科へ

図工の実践では、番組の視聴を通して、川を素材にした創作の可能性を知り自ら求めて、川から材料を収集してきた。総合的な学習の時間での体験を通して、川のもつ素材性を感じていた児童たちは、そこから発想を得て、楽しみながら創作活動に取り組むことができたと考えられる。

教科から総合へ

家庭科の実践を通して、環境と自分たちのくらしとの関わりを見つけた児童は、その環境への視点を、総合的な学習の時間における自分のテーマと結びつけて考えるようになった。教科学習で身に付いた視点が、総合的な学習の中に反映されていった事例と考えられる。

5 結論

学校放送番組「川」を活用し、教科学習と連動した総合的な学習を実践することによって、「川」を教材として意識しながら、学習活動に取り組むことができた。総合で身につけた知識を教科学習に生かしたり、教科学習で学んだことを基に、総合的な学習での追究の視点を広げたりすることができた。

これまでに論じてきたような、教科と総合を連動させた実践を重ねることによって、児童が具体的にどのような力を伸ばしていったかについては、今後さらに分析していきたい。

[参考文献]

[1] 木原俊行(2002.4):「新番組『川』～その特色と可能性～」,『学校放送小学校4年1学期』,日本放送出版協会, pp90-91

[2] NHK学校放送「川」番組ホームページ:

<http://www.nhk.or.jp/kawa/>



(図6) 浄化センターの見学



(図7) ゲストティーチャーの指導